

一 是真仏子 住淳善地の事

仰せに云はく、末法当今に於て釈迦如来の眞実の御子と云ふは法華經の行者なり。其の故は上の文に「能く来世に於て此の經を読み持たん」と説けり。来世とは末法なり、読むと云ふは法華經の如説修行の行者なり。弘法・慈覺・智証等・善導・法然等讀みて云はく、第三劣・戲論の法・捨閉閣拋・理同事勝等と読むは謗法にして、三仏の御舌を切るに非ずや。何に況んや持たんをや。傳教大師云はく「法華經を讚むと雖も還つて法華の心を死す」とは是なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る人は讀持此經の人なり。豈是真仏子に非ずや、淳善地は寂光土に非ずや。是真仏子の子の字は十界の衆生なり。所詮此の子の字は法華經の行者に限る。悉是吾子の子は孝不孝を分別せざる子なり。我等皆以仏子の子は中根の聲聞仏子に似たりと説かれたり。為治狂子故の子は久遠の下種を忘れたれば物にくるう子なり。仍つて釈尊の御子にも物にくるう子もあり、不孝の子もあり、孝養の子もあり。所謂法華經の行者は眞実に釈尊の御子なり。釈迦・多宝・分身・三千三百万億那由他の世界に充滿せる諸仏の御前にして、孝不孝の子を定め置き玉へり。父の業をつぐを以て子とせり。三世の諸仏の業とは南無妙法蓮華經是なり。法師品に「如来の事を行ずるなり」と説けり云云。法華經は母なり、釈尊は父なり、我等衆生は子なり。無量義經に云はく「諸仏の国王と是の經の夫人と和合して共に是の菩薩の子を生む」と。菩薩とは法華經の行者なり。法師品に云はく「在家出家菩薩の道を行ず」と。